

# 複数の資料を関連付けて読み取り，考えを表現するためのタブレット活用

仙台市立錦ヶ丘小学校 教諭 石井里枝

キーワード：放送番組，動画クリップ，タブレット端末

## 1. はじめに

社会科の学習では，資料から必要な情報を読み取り，比較・関連付け・整理しながら，自分の考えを表現することを大切にしている。特に，5年生の学習では，日本の国土や産業について理解する上で，図やグラフからの情報を読み取って整理していくことが欠かせないと感じている。

しかし，一つ一つの資料から数値や出来事を読み取ることではできても，複数の資料を関連付けるなどして整理し，自分の考えを表現していくのは簡単なことではない。また，課題解決に役立つ情報として，資料から何を讀みとればいいのかを判断できずにいることも多く見られる。

そこで，あえて同じテーマに対して，複数の異なる資料を用意し，そこから取り出した情報を，比較したり関連付けたりしながら，自分の考えをまとめて表現していくような授業実践の工夫を行うこととし，授業を支える道具として，タブレット端末を活用した。

## 2. 実践の目的

児童一人一人が，課題解決に向けて，複数の資料から情報を読み取り，読み取った結果を比較したり，関連付けを図ったりしながら自分なりに納得した考えを表現できるようにするためのタブレット端末の活用のあり方を探る。

## 3. 授業づくりの工夫

### (1) 複数資料の比較検討の必要性を高める課題設定の工夫

課題に対する答えが一つではなく，多様な見方や考え方に気づくことが，よりよい課題解決につながるような，学習課題の設定を行う。

### (2) 複数資料の比較検討を取り入れた学習過程の工夫とタブレット端末活用

基本的な学習過程を次のようにする。

- ① 異なる資料を分担して調べる。
- ② 異なる資料から調べた結果を持ち寄って比較・検討する。
- ③ 課題に対する考えをグループや個人でまとめる。

このような学習過程で，子供たちが調べる主な資料（情報源）は，社会的事象を具体的に捉えたり，社会的事象の意味を広い視野から考えたりすることができる，NHK for Schoolの番組やクリップとする。

動画資料の分担視聴がしやすいように，タブレット端末を活用する。

### (3) タブレット端末を活用した表現活動の工夫

タブレット端末には映像編集がしやすいアプリがあり，子供たちもすぐに使えるようになる。そこで，考えたことを映像で表現する活動を取り入れる。

併せて映像表現の質を高めるためにルーブリックの

作成を行う。

## 4. 授業の実際

### (1) 実践単元

「あたたかい土地の暮らし／寒い土地の暮らし」  
(東京書籍 5年社会・上)

### (2) 単元計画 (全4時間)

段階(時間)	主な学習活動
導入 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海の写真とスキー場の写真を読み解きながら，どこの土地の様子なのか推察する。</li> <li>・ 沖縄と北海道をイメージするものを発表する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【学習課題】「〇〇と言えば沖縄」「△△と言えば北海道」と言えるのはなぜか。先生が納得できるように説明対決をしよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような説明になっていけば，相手は納得するのか，「ゴーヤー」の動画クリップを視聴して，ルーブリックを作成する。</li> </ul>
収集 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄チームと北海道チームに分かれ，5つの素材の中から説明したいものを選んで，学校放送番組「未来広告ジャパン！」や動画クリップを視聴し，課題解決の手がかりとなる情報をノートにメモする。 (沖縄と北海道の気候の特色や人々の暮らしに目が向くように，「環境」「食・産業」「住」がテーマとなる素材を提示し，調べさせる。) (二人一組によるタブレット端末の活用。)</li> </ul>
編集 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明するための資料を，学校放送番組や動画クリップから，必要な部分をキャプチャし，4枚選ぶ。</li> <li>・ タブレットアプリ「ロイロノート」を活用し，4枚の資料の順番を考えながら，説明資料を完成させる。</li> </ul>
(1) 発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作成した説明資料を発表する。</li> <li>・ 互いの発表を聞き，沖縄にも北海道にも共通することは何かを自分のことばでまとめる。</li> </ul>

### (3) 学習課題の設定

本単元の学習課題を「〇〇と言えば沖縄」「△△と言えば北海道」と言えるのはなぜか。先生が納得できるように説明対決をしよう。」と設定した。沖縄や北海道をイメージするものはたくさんあるが，なぜ人々はそれをイメージとして持っているのか。それらのイメージと土地のつながりは何なのか，を説明することをゴールとすることで，その根拠を示す資料を探す必要が生まれ，資料の比較検討を促すことをねらった。

また，どのような資料をどのような順序で組み合わせるかはグループ毎に異なってくることから，多様な見方や考え方に触れることができることを想定している。

### (4) タブレット端末で情報を編集・発信

課題解決における情報源として，学校放送番組「未来広告ジャパン！」の動画や動画クリップを活用した。児童は二人一組でタブレット端末を使い視聴し，ノートにメモを取っていった。教師側があらかじめ視聴する番組や動画クリップを指定し，児童が共通

の情報源の中で適切な資料を選べるようにした。

編集場面では、視聴した番組や動画クリップからキャプチャした静止画を4枚に絞らせ、説明資料とした。資料の枚数を制限することで、前後のつながりや資料の関連付けを意識したり、内容を焦点化させたりすることをねらいとした。



写真1 放送番組等を活用した調べ学習



写真2 タブレット端末で説明資料づくり

また、沖縄と北海道の説明がどのようなものであれば相手は納得するのか、前単元の既習事項（「低い土地のくらし」）を生かして、ルーブリックを作成した。ルーブリック作成時には、沖縄のイメージの代表例として「ゴーヤー」を取り上げ、動画クリップを一斉視聴しながら、どのような説明であれば聞き手が納得するか、児童の発言より整理していった。児童が設定したルーブリックは表1の通りである。

表1 児童が作成したルーブリック

評価	内容
S	気候の条件や土地の様子との関連だけでなく、その土地の人々がどのように生かしてきてきたかが説明できている。
A	気候の条件や土地の様子とどのように関係しているか説明できている。
B	イメージする言葉が、気候の条件や土地の様子との関連付けの理由が明確でない。
C	理由付けに関連がない。

#### 4. 成果

##### ①資料を関連付けて考える

資料の中には、他の児童には必要な情報でも、自分が担当する説明内容には必要の無い情報も含まれている。表2のように、説明に使える静止画資料を4枚に制限することで、児童は情報の取捨選択をする必要

が生まれ、動画のどの場面をキャプチャするかなど、情報の精選と吟味を促すことができた。また、4枚の静止画をどの順序で並べるのかによって伝わる内容も変わってくることから、資料同士の関連も意識しながら説明資料を制作することができた。

表2 児童の発表内容例

資料	説明内容
1	ゴーヤーと言えば沖縄と言えるのは、ゴーヤーは沖縄のあたたかい気候に適しているからです。まずは、ゴーヤーと沖縄の気温との関係です。
2	ゴーヤーは寒さを好まず、あたたかい気候を好みます。なので、一年中あたたかい沖縄の気候に適しています。
3	また、ゴーヤーにはビタミンが多く含まれています。暑い沖縄に住む人々の疲れをいやす効果があります。また、夏ばてなどの病気を防いで健康をサポートしてくれます。なので、沖縄料理にはゴーヤーが多く使われています。
4	このように、ゴーヤーは、沖縄の食生活に欠かせない物であり、かつ沖縄の気候に適しているので、さかんに栽培されています。だから、ゴーヤーと言えば沖縄と言えるのです。

※ 著作権により、資料の表示を省略※

##### ②情報の編集の段階における主体的な相互評価

学習のゴールの姿をルーブリックとして設定することで、学習のねらいがより具体化し、児童自身が学習の到達目標を自覚することができた。また、調べた資料同士の関連付けが適切かどうか自己評価したり、お互いの発表を評価し合ったりする指標ともなり、より主体的な学習へとつながった。

これまでであれば、児童は自分たちの制作物の出来映えについて、教師に確認やアドバイスをもらいにくることが多かった。しかし、児童自身で単元のゴールのルーブリックを設定したことにより、自分たちが制作している説明資料が適切かどうか、児童同士で確認し、評価し合う場面が多く見られた。(表3)

表3 相互評価場面での児童の意見

評価	児童の評価
S	【沖縄とシークワサー】への評価 沖縄の気候に適した農作物をつくるだけでなく、人々がそれらを夏の暑さに負けない体をつくるために必要な物として栽培していることが分かった。
A	【北海道への雪屋根】への評価 たくさん降る雪の対策として雪を積もらせない屋根の形になっていることは分かった。人々がその工夫をどのように生かしているのかつながりをもっと知りたい。

#### 5. まとめ

複数の異なる資料からの情報の読み取りが必然性を持って行われるように課題を設定し、異なる資料の比較・検討・整理の過程において、タブレット端末を活用し視覚的に情報を共有できたことは、社会科の目標でもある、資料を効果的に活用し、情報を比較・関連付けながら自分の考えを整理することにつながった。

ルーブリックの設定など、課題の達成度を確認したり、適切な相互評価を促したりする仕掛けを行うことが表現活動の質を高める上で大切であることも確認できた。